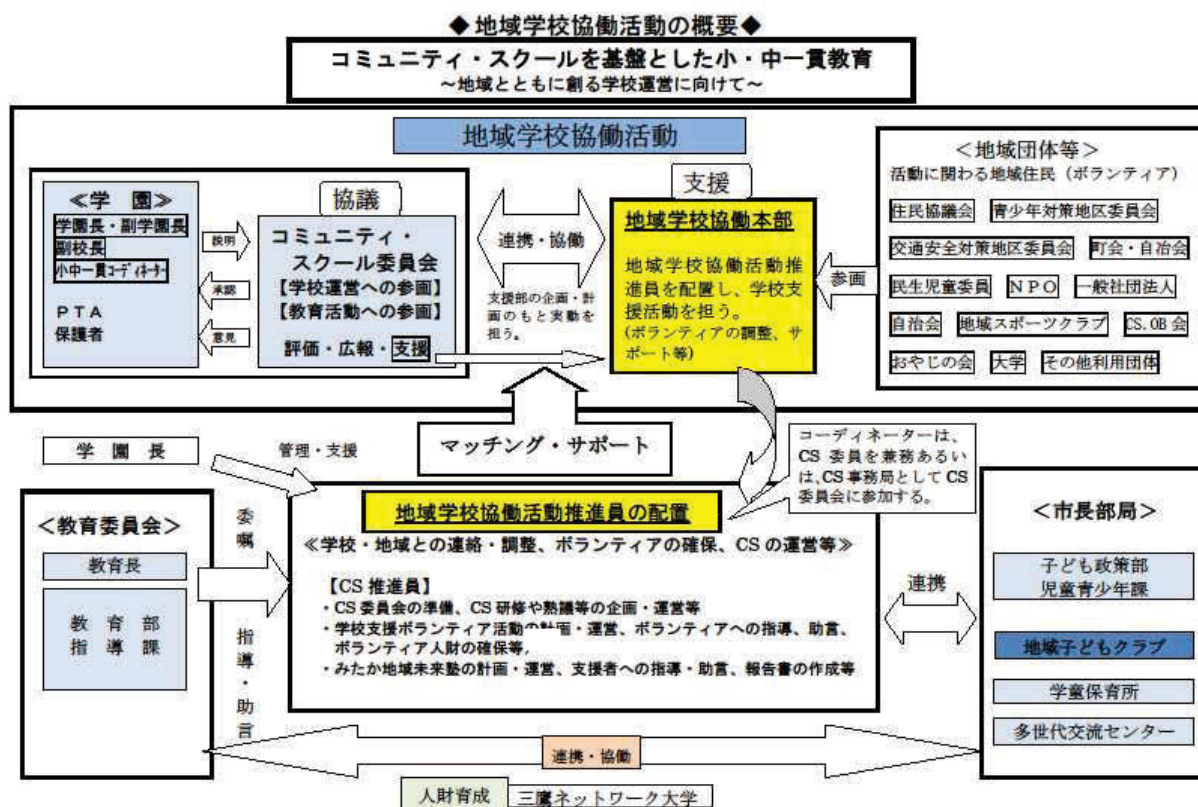


## ◆事業方針（計画等における位置づけ）

学校と学校支援ボランティアとの連携及び調整を図り、教育活動に対して幅広い地域の支援を持続的に得ることを可能にするとともにコミュニティ・スクールとしての事務局機能の充実・発展を図っている。平成30年度は、3学園（三鷹中央学園・鷹南学園・おおさわ学園）にCS推進員（地域学校協働活動推進員）を配置している。

## ◆地域学校協働活動（学校支援活動を含む）の実施体制（特徴・工夫等含む）



## ◆広報活動（パンフレット、HP活用、広報誌、報告書など）

- ・ボランティア説明会の案内を作成し、コミュニティ・スクール委員会や学校を通して、家庭・地域への周知。
- ・学校支援ボランティア募集システム運用説明資料の作成

## ◆コーディネーターの育成・交流の機会提供や学校に対する事業理解促進

- ・年度当初、CS推進員（地域学校協働活動推進員）に対し、役割や事務手続きについて周知。
- ・CS委員（学校運営協議会委員）、校長を対象に地域学校協働本部員活動実施報告会を実施。
- ・学校支援ボランティア募集登録システムの改修に向けた情報交換会に参加。

## ◆成果

- ・子供たちが地域の方々と接する多くの活動があることにより、思いやりの心や地域の方々と協力して活動する大切さを学び、豊かな人間性を育むことができる。また、活動も定着しており、地域の方々から信頼され喜ばれている。
- ・地域の活動が単体で行われていたものが、地域学校協働本部が学校と地域をコーディネートすることにより、横のつながりが生まれ、地域活動に盛り上がりが出てきた。学校への理解が進み、教育活動への協力体制が広がった。
- ・昨年度、市全体でボランティア延べ参加者数は21,126人であった。一昨年度からは776名と着実に増えている。地域からの学校への理解も進み、教育活動への協力体制が広がっている。

## ◆課題・展望

学園の活動を年間を通して評価・検証するPDCAサイクルを確立しており、本地域学校協働活動についても評価・検証対象事業に位置付け、改善事項の具現化に向けて取り組んでいる。サポート隊事務局（地域学校協働本部）がスムーズに運営できるよう、手引き等を作成し持続可能な取り組みを大切にしている。